

令和4年度

主要な施策の成果に関する説明書

鳥栖・三養基西部環境施設組合

令和4年度主要な施策の成果に関する説明書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第5項の規定に基づく令和2年度決算に係る主要な施策とその成果について次のとおり報告する。

令和5年8月28日

鳥栖・三養基西部環境施設組合
管理者 岡 毅

目 次

1 決算の概要

(1) 総括	1
(2) 収支の状況	1
(3) 歳入の状況	1
(4) 歳出の状況	2

2 主要事業の成果

(1) ごみ処理	3
(2) 環境情報	6
(3) 啓発事業	7

1 決算の概要

(1) 総括

歳入は、収入額 16 億 1,634 万 1 千円で、前年度から 1 億 64 万円 (6.6%) の増となっており、歳出も、支出額 15 億 8,446 万 8 千円で、前年度から 9,850 万円 (6.6%) の増となった。

歳入では、事業所ごみの増に伴う溶融資源化センターごみ処理手数料の増加と売渡価格の上昇による有価資源物売払金の増加が見られた。また、溶融施設運転管理業務委託料の増に対処するために施設整備基金繰入金 5,000 万円を計上した。

歳出では、用役費の増に伴う溶融施設運転管理業務委託料の増加、さらにリサイクルプラザ運転管理委託料及びプラントの光熱水費の増加が見られた。

(2) 収支の状況

歳入総額 16 億 1,634 万 1 千円から、歳出総額 15 億 8,446 万 8 千円を差し引いた歳入歳出差引額は 3,187 万 3 千円となり、実質収支額も同額となっている。

今年度実質収支額から前年度実質収支額 2,973 万 3 千円 (前年度決算剰余金) を差し引いた単年度収支は、2,140 万円の黒字となった。

・歳入歳出収支状況

(単位：千円)

	歳入総額	歳出総額	差引額	翌年度へ繰り越すべき財源	実質収支
令和 4 年度	1,616,341	1,584,468	31,873	0	31,873
令和 3 年度	1,515,701	1,485,968	29,733	0	29,733
増減	100,640	98,500	2,140	0	2,140

(3) 歳入の状況

(単位：千円)

区 分	令和 4 年度		令和 3 年度		増減 (A)-(B) (C)	対前年度 増減率(%) (C)/(B)
	決算額 (A)	構成比	決算額 (B)	構成比		
分担金及び負担金	1,236,935	76.5%	1,182,596	78.0%	54,339	4.6%
使用料及び手数料	183,507	11.4%	167,596	11.0%	15,911	9.5%
財産収入	425	0.0%	413	0.0%	12	2.9%
繰入金	50,000	3.1%	0	0.0%	50,000	0.0%
繰越金	29,732	1.8%	49,196	3.3%	▲19,464	▲39.6%
諸収入	115,742	7.2%	115,900	7.7%	▲158	▲0.1%
歳入合計	1,616,341	100.0%	1,515,701	100.0%	100,640	6.6%

・構成市町別負担金一覧

(単位：千円)

区 分		解体準備費	管理運営費	計
鳥栖市	令和4年度	45,220	777,803	823,023
	令和3年度	45,220	741,088	786,308
	増減	0	36,715	36,715
上峰町	令和4年度	7,701	128,096	135,797
	令和3年度	7,701	120,279	127,980
	増減	0	7,817	7,817
みやき町	令和4年度	17,079	261,036	278,115
	令和3年度	17,079	251,229	268,308
	増減	0	9,807	9,807
合計	令和4年度	70,000	1,166,935	1,236,935
	令和3年度	70,000	1,112,596	1,182,596
	増減	0	54,339	54,339

・ごみ処理手数料

(単位：千円)

	鳥栖市	上峰町	みやき町	計
令和4年度	142,530	10,422	30,555	183,507
令和3年度	125,051	11,089	31,456	167,596
増 減	17,479	▲667	▲901	15,911

・資源化物の売払い額

(単位：千円)

	スラグ メタル	金属類	古紙類	Pボトル (容り協含)	小型家電	びん類外	合 計
令和4年度	1,890	46,730	9,274	14,001	865	1,266	74,026
令和3年度	2,030	41,104	7,933	5,478	1,005	955	58,505
増 減	▲140	5,626	1,341	8,523	▲140	311	15,521

(4) 歳出の状況

(単位：千円)

区 分	令和4年度		令和3年度		増減 (A)-(B) (C)	対前年度 増減率(%) (C)/(B)
	決算額 (A)	構成比	算額 (B)	構成比		
議会費	281	0.0%	276	0.0%	5	1.8%
総務費	148,813	9.4%	172,391	11.6%	▲23,578	▲13.7%
衛生費	1,435,374	90.6%	1,313,301	88.4%	122,073	9.3%
公債費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
予備費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
歳出合計	1,584,468	100.0%	1,485,968	100.0%	98,500	6.6%

2 主要事業の成果

(1) ごみ処理

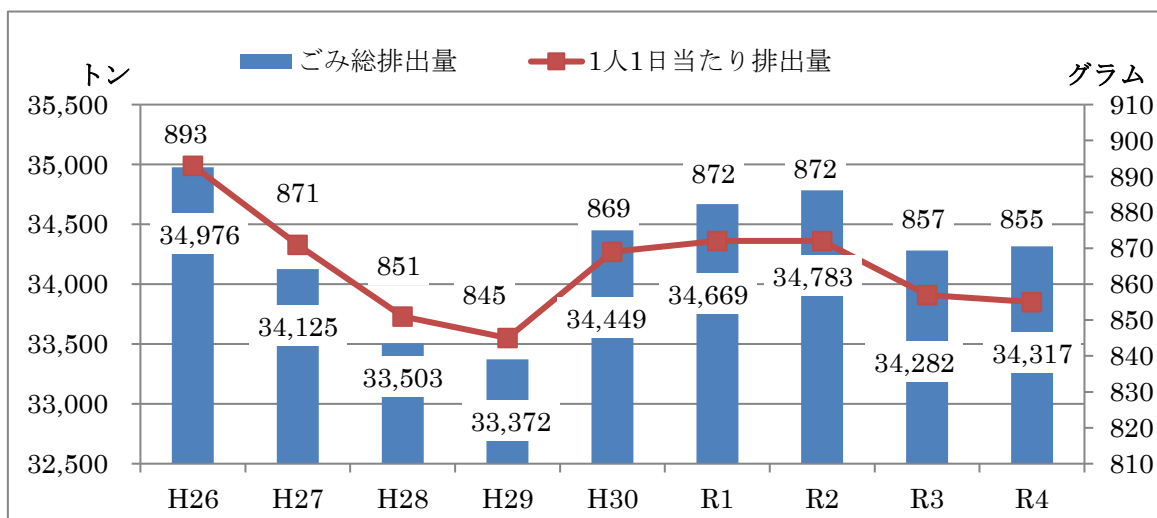
令和4年度の搬入ごみ量は、総計3万4,317トンで、前年度比較406トン(1.2%)の減少となった。種類別にみると、可燃ごみは258トン(0.9%)の増加、粗大・不燃ごみは554トン(14.7%)の減少、資源ごみは110トン(6.1%)の減少となり、市町の割合は、鳥栖市72%、上峰町8%、みやき町20%となり、ごみ搬入量を1人1日当たりの量に換算すれば、鳥栖市が913グラム、上峰町が754グラム、みやき町が729グラムとなった。

・ごみ搬入量

(単位：トン、人)

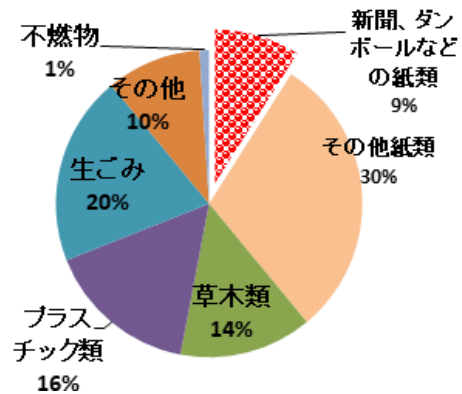
		可燃ごみ	粗大不燃ごみ	資源ごみ	計	人口(10.1)
鳥 栖 市	令和4年度	21,403.95	2,142.83	1,284.79	24,831.57	74,475
	令和3年度	20,631.53	2,488.57	1,355.56	24,475.66	74,063
	増減	772.42	▲345.74	▲70.77	355.91	412
上 峰 町	令和4年度	2,044.61	424.37	157.32	2,691.94	9,787
	令和3年度	2,059.87	458.26	173.81	2,691.94	9,727
	増減	▲15.26	▲33.89	▲16.49	0	60
みやき町	令和4年度	5,313.10	1,188.43	357.30	6,858.83	25,730
	令和3年度	5,371.47	1,363.02	379.56	7,114.05	25,818
	増減	▲58.37	▲174.59	▲22.26	▲255.22	▲88
災害ごみ	令和4年度	0	—		0	
	令和3年度	440.69	(大村市261、大町町179)		440.69	
	増減	▲440.69	—		▲440.69	
合計	令和4年度	28,761.66	3,755.63	1,799.41	34,316.70	109,992
	令和3年度	28,503.56	4,309.85	1,908.93	34,722.34	109,608
	増減	258.10	▲554.22	▲109.52	▲405.64	384

・ごみ搬入量の推移(災害ごみ除く)



・可燃ごみの分類

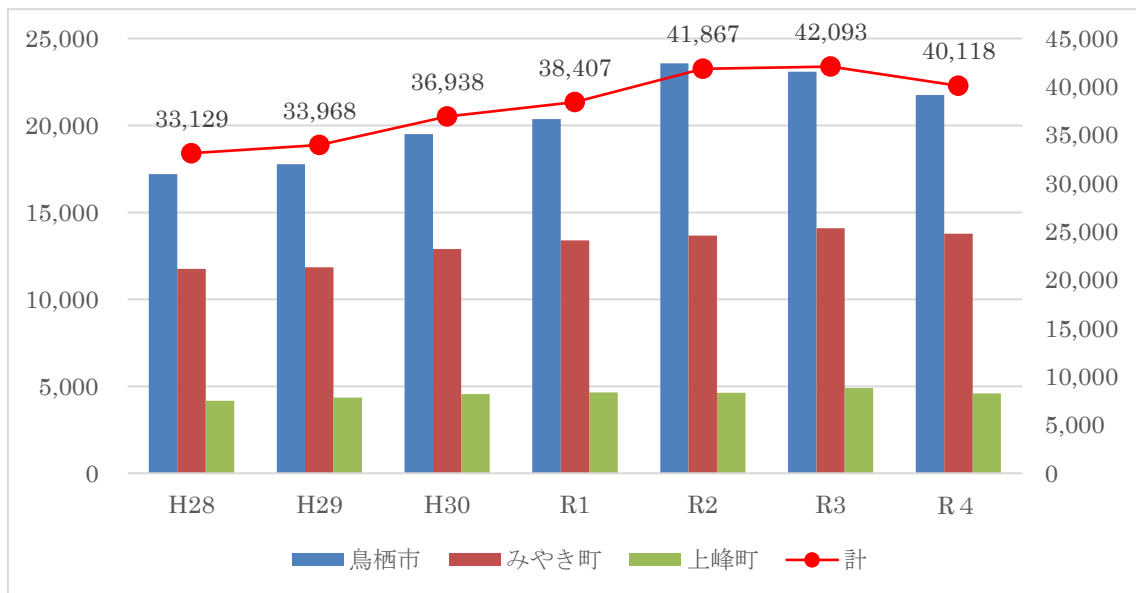
可燃ごみを分類すると、紙類が39%、プラスチック類16%、生ごみ20%、草木類14%であった。また、紙類のうち、資源化回収の対象となっている新聞、ダンボール類が9%含まれ、重量にすると2,600トン程度となる。



焼却処分の中には、まだまだ資源ごみが潜在していることから、更なる資源化分別を進める余地がある。

生ごみは、前年度からは横ばい傾向であるが、依然として可燃ごみ中の水分は40%以上を占めている。食品ロスの問題もあり、引き続き「使い切り」、「食べ切り」、「水切り」を推進していく必要がある。

・リサイクルプラザ直接搬入台数の推移（単位：台）



令和4年度は、年間40,118台（前年比1,975台減）で減少傾向にあったが、ここ3年は年間40,000台を超えている状況である。特に年末12月28日、29日、30日の3日間では延べ1,025台の搬入があった。また、1日あたりの搬入台数では祝日受付の導入もあって124台と若干の減少傾向にあった。

・ごみ処理の状況

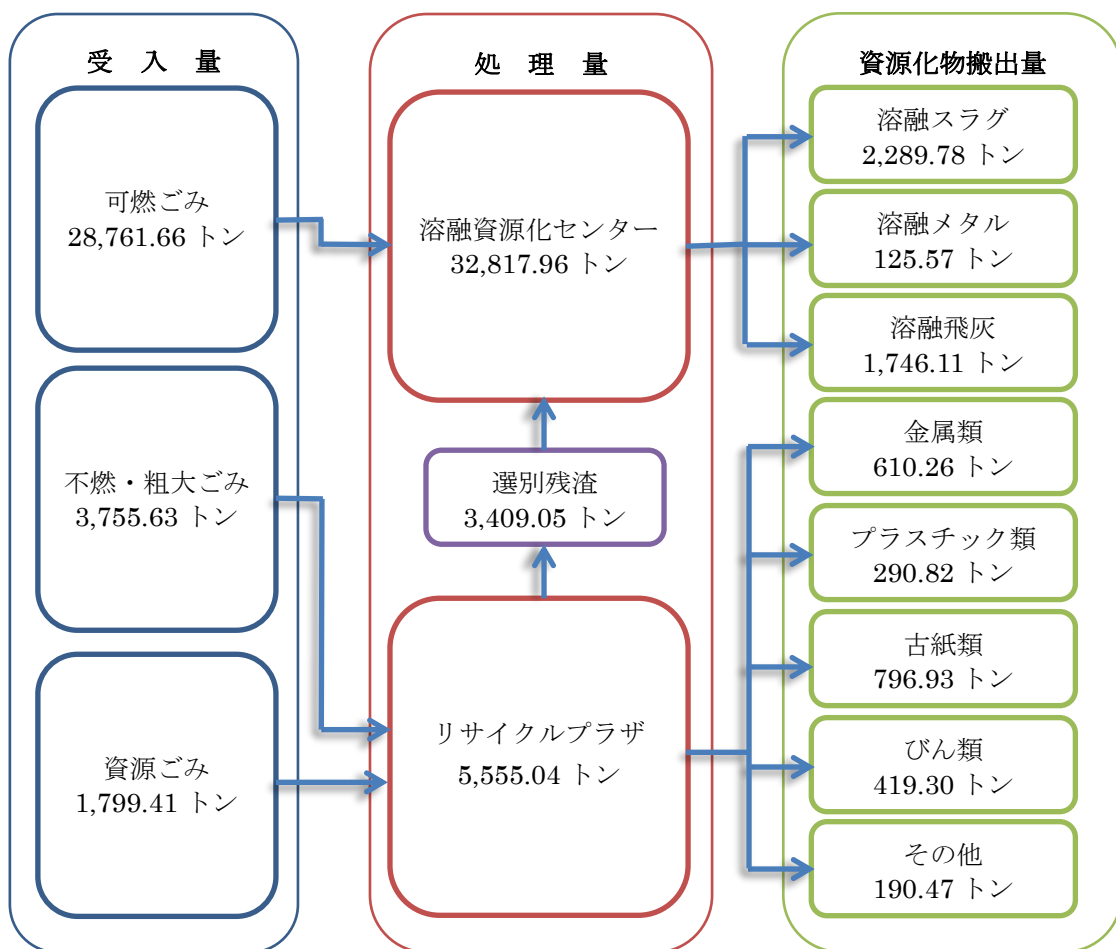
可燃ごみの処理（溶融資源化センター）

32,818 トンを溶融施設で溶融処理し、溶融スラグ 2,290 トン（6.98%）、溶融メタル 126 トン（0.38%）を資源化した。溶融飛灰 1,746 トン（5.32%）は山元還元やセメント化、および埋立による処理を行った。

不燃・粗大ごみ、資源ごみの処理（リサイクルプラザ）

不燃・粗大ごみ 3,756 トン、資源ごみ 1,799 トンを選別処理し 2,308 トン（42%）を資源化物として搬出した。

・ごみ処理フロー



(2) 環境情報

・排ガス測定結果

区 分	測定日		排出基準 (協定値)
	R4. 6. 28	R4. 11. 1	
ばいじん (g/m ³ N)	0.001 未満	0.001 未満	0.01
硫黄酸化物(ppm)	15	25	50
窒素酸化物(ppm)	40	43	100
塩化水素(ppm)	1.8	1.3	50
一酸化炭素(ppm)	11	16	30
ダイオキシン類(ng-TEQ/m ³)	0.00043	0.00035	0.1
総水銀 (μg/m ³)	2.7	1.0	50

・周辺環境ダイオキシン類調査結果

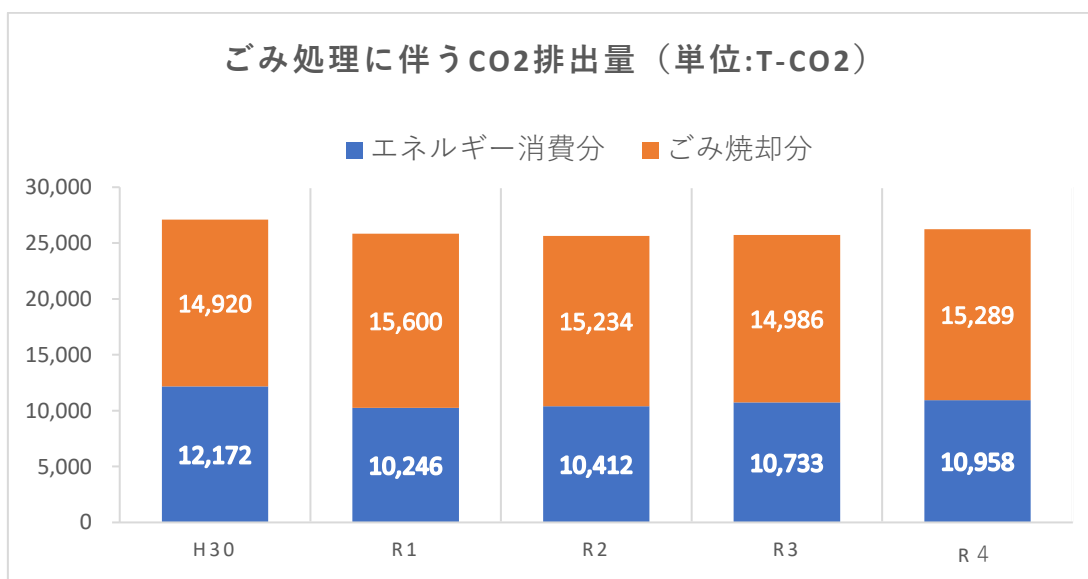
区 分	測定結果	基準値	測定日
大気 (p g-TEQ/m ³)	0.0066、0.0062	0.6	R5. 1. 7~14
底質土壌 (p g-TEQ/g)	56	150	R4. 10. 18
一般土壌 (p g-TEQ/g)	2.3	1,000	R4. 7. 14
水質 (p g-TEQ/l)	1.0	1	R4. 10. 18

・温暖化対策

ごみ処理に伴う二酸化炭素の排出量は、年間 26,247 トン-CO₂ であった。

施設内の消費電力削減に努めたが、年間の二酸化炭素発生量は 528 t-CO₂ の増であった。

引き続き消費エネルギーの削減とごみ減量化に取り組む必要がある。



(3) 啓発事業

・リサイクルプラザ利用状況（年間延べ利用者数）

視察研修	イベント参加	研修室借用	宿泊研修	エコライフ講座
951名	3,115名	57名	0名	0名

施設見学を通して環境学習に小学生 925 名が参加した。環境学習では、施設の紹介と合わせて、Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）の3つのRでゴミ減量化やリサイクル推進への啓発活動を行った。

環境イベントとして、毎月1日～12日の間に再生家具や再生自転車の展示販売を行う「もったいなか市」を開催した。

また、ホテル時期のホテル公園でのホテル観賞、そして環境美化活動として実施した菊づくり教室の菊花展には多くの来場者があった。

○もったいなか市



○ホテル公園



○小学校視察



○周辺環境美化活動（菊花展）

